シップ原生花園保全に関する議論の経緯

2011.1.作成

平成 18 年 6 月議会

質問 海岸草原では珍しいフデリンドウなど多くの植物の宝庫。平成 6 年に設置した木製の柵も 10 年余りを経過し、ところどころで傷みが目立つようになった。はまますの丘公園同様の調査と柵の改修に、早急に取り組むべきである。

回答 景観上支障がある場所、朽木などは除去し、車の進入防止の対策もあわせて行っていく。また今後植生基本調査も行う。

平成 20 年 6 月議会

質問 貴重な植物の保護のため、木柵の改修とともに、保護区の指定をすべきである。

回答 大部分の植生が相当程度保護されている状況にあるので、今後も植生状況の把握に努めていくとともに、保護対策を進める。保護区の指定については、植生等現況把握、指定の方法を検討する。

平成 21 年第 1 回運営委員会 (7/6)

シップ原生花園視察・シップ市有地の保全について

- ・車の乗り入れは、道路側に側溝があるため、ほとんどない。柵の必要は薄い。(事務局)
- ・柵は心理的効果があるので必要である。(委員)
- ・自然草原は植生自然度指標でみると「10」に該当し、これだけの面積規模で残っている地域は稀なので、保全の必要は十分ある。(委員)
- ・海側の保安林が砂丘植生を分断しているため、現在の砂丘植生が内陸植生へと置き換わっていく可能性がある。(委員)
- ・はまますの丘の海浜植物保護区のような保全の方法をとってほしい。(委員)
- ・保護区に指定して有名になることで余計人が入ることも懸念される。(委員)
- ・左岸地域での車乗り入れ規制により右岸地域に流れる可能性があり、植生悪化が懸念される。(委員)

平成 21 年度第 4 回運営委員会 (2/4)

シップ原生花園の保全について

- ・22 年度の予算要求はゼロ査定。保護区化に向けた課題として、「石狩川河口海浜植物等保護条例」の検討が必要である。(事務局)

- ・ 植生調査リストはボランティアで行ったものがある。(事務局)
- ・ 保護条例改正の手続きは、改正案を当センターで作って、環境審議会に諮問し答申を受け、議会で議決する。(事務局)
- ・ 規制の仕方を条例の中に盛り込んでいくかどうかから検討する。(事務局)
- ・ 石狩浜本来の自然の保全を目指す。指定にあたっては、他の関係部署との調整が生じてくる。(事務局)
- ・ 車の駐車スペースの確保も問題になる。右岸地域は、砂浜地域の海浜植生も豊か。左岸地域と右岸地域をつなぐ自然案内マップがあればいい。(委員)